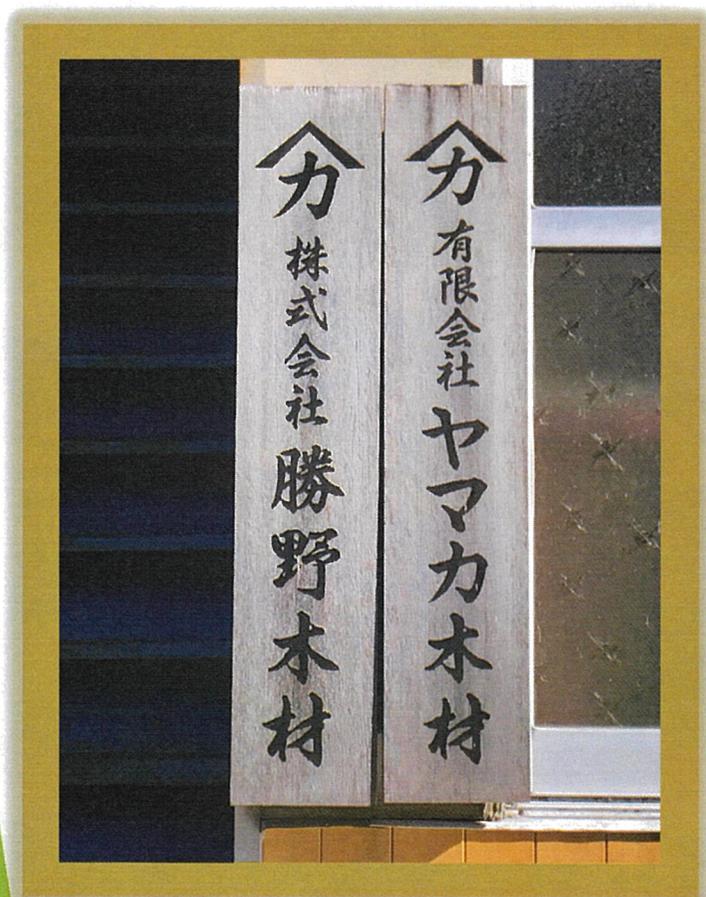


勝野木材グループ



企業案内

会社紹介



昭和38年 (有)勝野材木店として設立

平成15年 (有)ヤマカ木材

(株)勝野木材として2分社化

(株)勝野木材

従業員40名

木製品製材加工販売業

- ・木曽ひのきの柱材を生産
- ・住宅1棟分をPC込での受注
- ・木工製品の加工販売
- ・製材量：600本/日
- ・製材材積：12,000m³
- ・年間：12万本 生産

(有)ヤマカ木材

従業員34名

国有林の生産請負業

- ・年間20,000m³請負
- ・柱取り丸太を
年間約20万本伐出

長野県内屈指の製材事業と素材生産事業を展開しています

(有)ヤマカ木材

中部森林管理局による木曽谷国有林野の素材生産事業の発注が毎年あります。入札でヤマカ木材等、素材生産業者が参加し入札します。一番経費が安く、安全に仕事ができる事業者が落札する仕組みになっています。

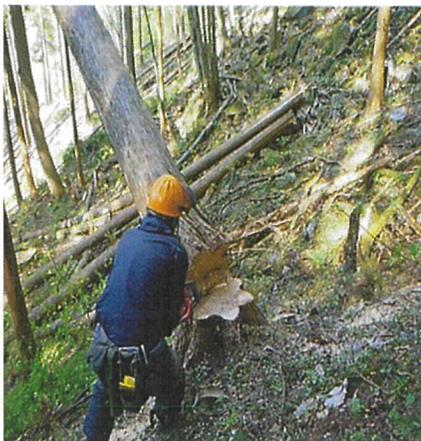
落札した山の木を『伐採』 『集材』 『造材』 『搬出』 までをおこなっております。

搬出作業には
ヘリを使うことも

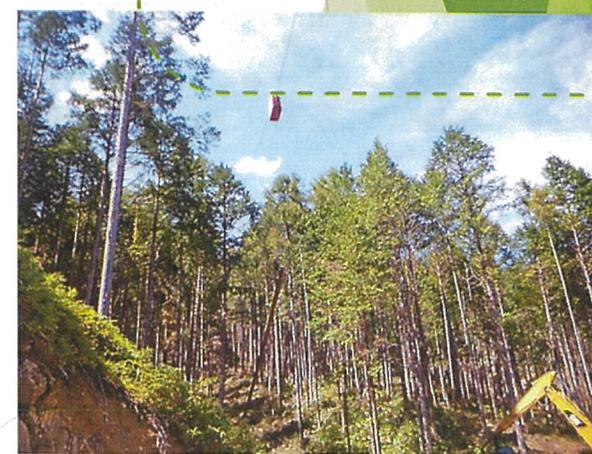
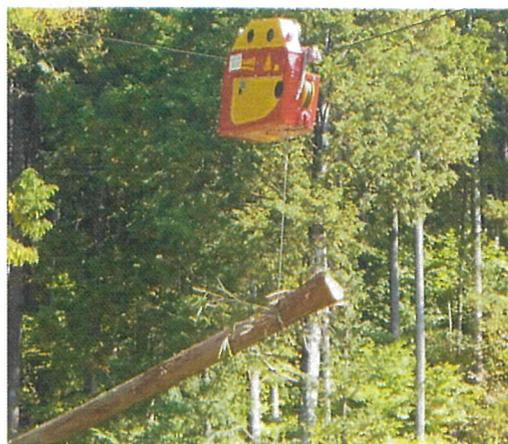
アカギヘリコプター
K-MAX



『伐採』



『集材』 ウッドライナーによる集材風景



『造材』 『搬出』



林道まで搬出された丸太は長すぎてトラックで運搬不可



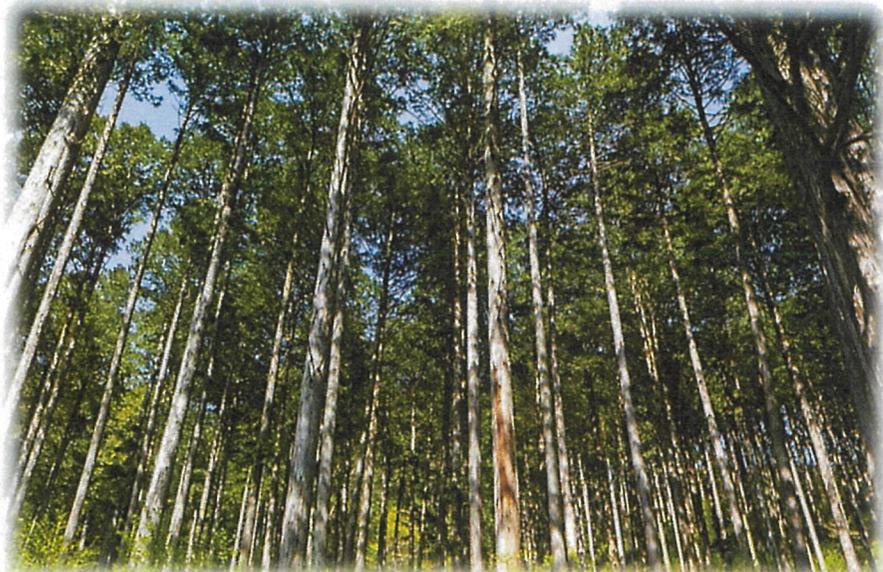
造材機（プロセッサ）を使い製品に適した長さに切り揃える



山土場で積込 → 市場へ



間伐を行うことにより・山の保水力の向上による**土砂崩壊の防止**
光合成の活発化による**地球温暖化の抑制**が期待できる



我々の仕事は山を守り、水を守り、地域を守る
そして環境を守る仕事を行っております。

木曽檜の歴史

『木曽檜』とは長野県と岐阜県にまたがる『木曽谷』に育つ天然檜になります。傾斜が険しい木曽の山は、雨が多く、特に冬は厳しい寒さと深い雪に包まれ、そのような厳しい自然環境の中、他の場所で育つ檜の2倍も3倍もの時間をかけゆっくり、ゆっくりと成長しています。

～木曽檜の歴史と木曽五木～

木曽檜が建築材として注目を集め出したのは、豊臣秀吉が天下人となった安土桃山時代に遡ります。大阪城や伏見城を築城する際に重宝したことがきっかけとなり、以後非常に多くの木曽檜が使われていきました。およそ100年にも及ぶ大量伐採により、木曽の資源は枯渇し、山は荒廃の一途を辿ります。その状況を危惧した尾張藩は「木一本に首一つ」「枝一本に腕一つ」という厳しい掟を儲け、森林保護対策に乗り出します。伐ってはいけない木はヒノキをはじめ、サワラ、アスナロ、ネズコ、コウヤマキの5つ。これを称して「木曽五木（きそごぼく）」と言います。尾張藩の管理は明治3年まで続き、明治22年帝室林野局御料林となり、終戦後の昭和22年には林政統一により国有林となりました。現在では国が天然木曽檜の保護政策を進め木曽悠久の森として国が管理をおこない保護と復元を目指しております。

天然木曽檜にかわる木曽谷の森林資源

国有林のブランド材 **高** **国** 木曽ひのき



木曽谷の国有林から産出される木曽ひのきの内
林齢が80年以上で特に品質の良い材

を指す

※林野庁中部森林管理局によりブランド化

※マルコウ マルコク

高 : 高齢級

国 : 国有林産



4 m材においては左写真のような極印が押されており、100や120は木材の林齢を表しています(80:80-99年 100:100-119年 120:120年以上)

※国有林野はすべて林班と呼ばれる住所が付けられており、中部森林管理局により植林を行った樹種、林齢、間伐を行った時期や林班ごとの材積が記録・管理されています。

→ **80年生以上の木曽ひのきである根拠が明確になっています**

(株)勝野木材

ヤマカ木材が伐出した木曽ひのき丸太の80%を公売で購入し住宅の柱材をメインに製材をしています。製材した柱製品は全国の市場やハウスメーカー・建設会社へ販売しています。

天然木曽檜の社寺仏閣用特殊製材・原木調達などもおこなっています。

製材の際に出る端材を活用し、キャットアスレチック・ドックサークル・木曽五木でのレジンテーブルやレジン花台などの新しい商品開発もおこなっています。

【本社工場】大径木の製材



【小径木工場】ノーマンツインバンドソーで自動化



製材量 : 600本/日
製材材積 : 12,000m³
(年間) (約12万本)
乾燥機 : 9基保有
(中温乾燥機 4基)
(高温乾燥機 3基)
(過熱蒸気式 1基)
(電気式 1基)

【木工部】

製材で出る端材を活用し『ひのき箸』をはじめ木工製品の制作。『キャットアスレチック』や『ドックサークル』『レジンテーブル』など新たな商品も制作しています。

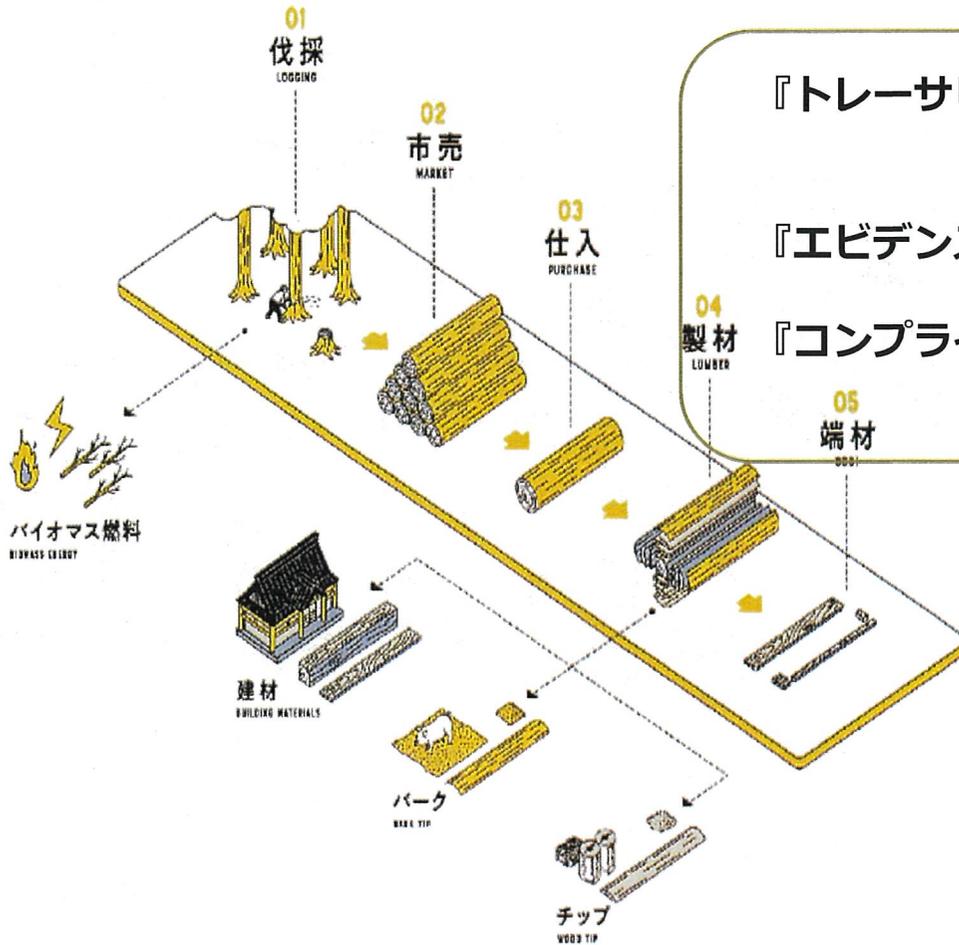


【営業企画部】

製品のすべて販売を受け持つ部門です。全国各地へ木曽ひのきを販売。建設会社よりPC込での受注そして新たな商品開発などを企画しています。



私どもは伐採から製材・乾燥・製品加工・端材利用・販売まで一貫しておこない、『木曾ひのき』の流通革命を実現するとともに、自然環境に配慮した循環型の木材利用を進め造林・育林事業にも力を入れ、安定供給を常に目指しています。



『トレーサビリティ』	商品の生産そして消費までの過程を追跡可能な状態
『エビデンス』	証拠・根拠
『コンプライアンス』	法令遵守

→ ユーザー



木曽ひのきのJAS製品

JAS 機械等級区分 E90以上 SD20

建築のプロが安心して使える品質・性能基準を満たした構造用製材品

農林水産大臣が制定した「日本農林規格（JAS規格）」に基づく
品質検査方法・生産方法・流通方法などの基準を満たす商品。

グレーディングマシン（検査機械）を用いた品質管理により、基準強度の測定と正確な含水率測定します。
目視での材面検査も同時に行い、目視等級3級以上の基準を満たす製品がJAS製品となります。

弊社は2023年3月30日 JAS認定工場に認定。

※ひのき 正角・平角 機械等級区分

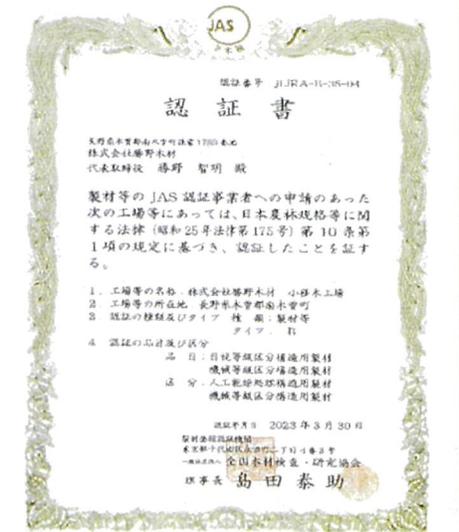
※からまつ正角・平角 目視等級区分

①製造工程 自動化で省コストを実現

②乾燥工程 狂いの少ない製品のために

③集成材よりも寸法精度の高い無垢材 仕上行程のこだわり

④JASの品質基準に基づき品質検査



勝野木材グループの経営理念として

**『持続可能な森林経営を通じて
社会貢献し続ける企業を目指すと
同時に全社員の幸せを実現する』**

SDGSの枠組みを活用することにより、社員の知識・価値観を高め持続可能な社会により一層貢献していくことを目指す。

【環境・社会】

価値のある木材製品を生産・流通することにより、森林の価値を高め持続的な森林経営をサポートする。

【社会・経済】

競争力のある企業として地域雇用を創出し、地域社会の価値を高め生活の質を向上させる。

【環境・社会・経済】

地元産丸太を使用して高品質・高強度・低化学物質かつ高耐候性の住宅用材を提供し、住宅の資産価値を向上し、100年単位にわたって続けられる家を提供する。

林業は5Kの産業 『環境』 『健康』 『観光』 『教育』 『かっこいい』